

平成25年度 大阪市会議員海外視察 報告

丹野 壮治

平成26年1月26日(日曜日)～平成26年1月29日(水曜日)の3泊4日の行程で、シンガポール共和国へ的大阪市会議員海外視察団に参加させていただき、シンガポール共和国における教育、観光、港湾、経済施策等の都市行政調査を行い、海外の先進事例を視察し、これからの大阪市における施策や事業等に参考になる事例をたくさん今回のシンガポール共和国で視察させていただきましたので、今後の大阪市政に活かせたいと考えております。

今回のシンガポール共和国への視察に際しまして、有意義かつ円滑な視察を実現出来るようになにかとお世話していただきました広田和美団長を始め、財団法人自治体国際化協会シンガポール様、シンガポール情報通信改発庁様、ナンヤン女子中高等学校様、キャンベラ小学校様、マリーナベイ・サンズ様、リゾート・ワールド・セントーサ様、そして随行して頂きました市会事務局や今回のシンガポール共和国への視察団の団員である大阪市会議員諸氏等たくさんの方々に支えられてこそ、実現出来ました視察だった事を、まず心から感謝申し上げます。

今回のシンガポール共和国への海外視察団のメンバーに加えて頂き、普段なかなか目にする事が出来ないような貴重な体験等をさせて頂き、本当に勉強になりました。

シンガポール共和国への視察は3泊4日と大変タイトな日程でしたが、シンガポール共和国では行政や民間の方々などたくさんの要人・関係者等にお会いし、意見交換等もさせて頂きました。

また、小学校や中学校などの行政機関をはじめとして、たくさんの施設等も効率良く視察出来たことは、本当に有意義な充実した時間を過ごさせて頂いたと考えております。

今回のシンガポール共和国での視察を今後の議員活動にも大いに役立てていきたいと考えております。

ここからは、今回のシンガポール共和国での海外視察の報告を致します。

なお、初日（平成26年1月26日）はシンガポール共和国のチャンギ国際空港に到着したのが17時頃で、視察はありませんでしたので、2日目（平成26年1月27日）の視察分から報告させて頂きます。

1. マリーナベイ・サンズ視察について

今回のシンガポール共和国への視察の最初の訪問先であるマリーナベイ・サンズとは、ラスベガスのカジノリゾート運営会社の一つであるラスベガス・サンズ社により開発された建造物で、現在はシンガポールの新たな象徴の一つとなっています。

マリーナベイ・サンズでは、カジノを中心とした統合型リゾート(IR)となっているので、単にカジノだけで観光客等を集客するのではなく、会議・インセンティブ旅行・コンベンション・展示会の単語の頭文字をとっていわゆるMICEビジネスに重点を置き、広く来訪者を集める手法を取っている世界で最も成功したと言える統合型リゾートです。

シンガポールには元々コンベンションセンター等が存在していたので、観光客だけでなく、ビジネスでの訪問者も多くいたという素地もあり、ここにサンズ社が目をつけて、統合型リゾート事業を成功させた。またサンズ社は世界三大カジノ市場全てに立地する唯一のカジノ企業という事も現地の特徴に応じた事業展開を行えた事も成功の一因となっている。

たとえば、ラスベガスモデルのように集客のために質素な客室に格安に泊まれるようなモデルをシンガポールでは行わないで、MICE事業に関連する来訪者の利用による高収益をあげる全室スイートルームにするラグジュアリーホテルという新しいビジネスモデルをシンガポールでは実現させたことにより、シンガポールで最も人気の高いホテルの地位を確立させた。客室稼働率も2013年の実績では99.8%という高稼働率も実現させることに成功した。

このマリーナベイ・サンズという新しい観光の目玉の出現により、マリーナベイ・サンズ社が参入する以前からあった既存の近隣のホテルや既存産業にも活力を与え、大きな波及効果をもたらしている。(図1)

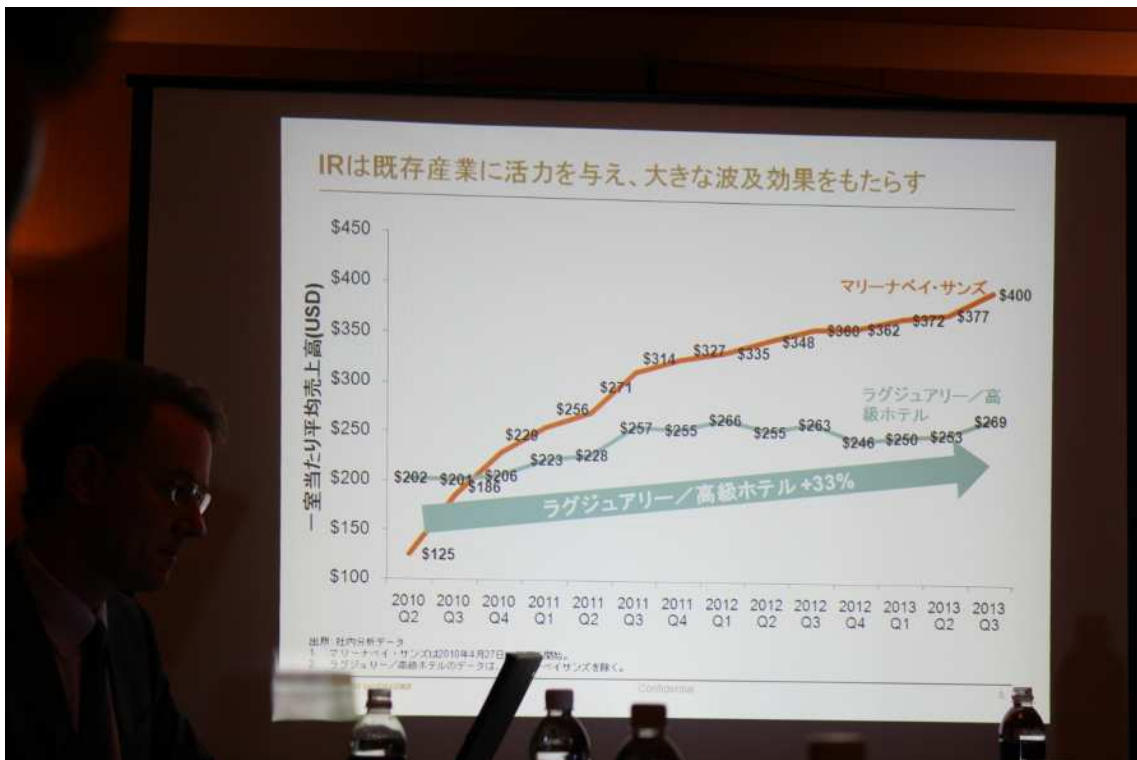


図 1

また、このマリーナベイ・サンズの成功のおかげで、それまでシンガポールでの開催がなかった展示会の誘致にも40件以上成功している。

大規模展示会の2012年の合計来場者が前年比で45%以上も増加している。

カジノ自体はマリーナベイ・サンズの施設のわずか3%しか占有していないが、収益の大半を稼ぎ出し、海外からの訪問者の増加など相乗効果をシンガポール共和国全体にもたらしている。カジノといえば、どうしてもマイナスのイメージも付きまとうが、実際の運営は大変厳格な運営管理が

行われている。例えば、シンガポール市民や永住者などからはカジノへの入場税を徴収したり、頻繁に来場する訪問を抑制したり、生活保護の人を入場を禁止したり、身内の申告により入場を規制出来るようなカジノ依存にならない仕組みを作っている。(図2)

この仕組みによりシンガポール政府が行ったギャンブル依存症者の数はマリーナベイ・サンズが出来前とあとで大きな変化もなく、犯罪率などは過去29年で最低を記録している。

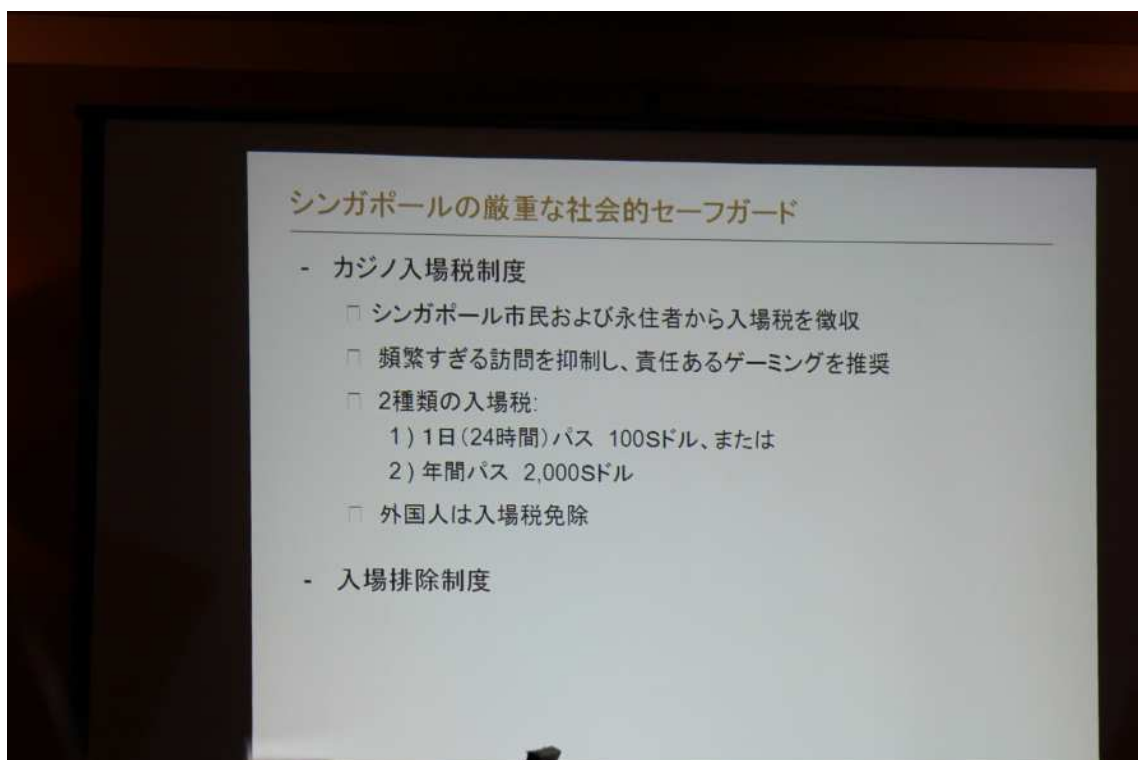


図 2

このマリーナベイ・サンズの成功によりシンガポール共和国にはたくさんの経済波及効果が表れています。

マリーナベイ・サンズ社は今回のマリーナベイ・サンズへの投資にあたり56億米ドルを投資しており、2012年の税収も7億米ドル、雇用もマリーナベイ・サンズだけで3万7千人もの雇用を創出している。

今、大阪市でもカジノを含めたIRの誘致を検討中ですが、大阪の経済の再生、周辺産業への多大な波及効果、国際的なMICEビジネスの確立、関西の文化や観光を世界に発信する手段、数万に及ぶ雇用の創出、海外からの観光客の増加、多額の税収など多くのメリットがあるIRを誘致するにあたっての検討課題が明確化されました。

マリーナベイ・サンズの完成により、シンガポール共和国では投資が投資を呼ぶ好循環のサイクルが出来て、たくさんの新規開発がおこなわれている。



图 3

2 財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所訪問

日本の自治体が費用を負担しあって設立されている財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所に訪問させて頂き、現在のシンガポール共和国を現地にいる日本人からの視点で色々と説明して頂きました。(図4)

このあとの行程にも随行して頂き、感謝しております。



図 4

3 シンガポール情報通信開発庁情報通信体験センター視察

情報通信体験センターでの視察では、IT技術の分野では目覚ましい発展を遂げているシンガポールでの情報通信分野を体験できるセンターを視察させていただきました。

図5の写真は、ネット上で、実際の店舗のレイアウトのように作成し、店舗に実際に行かなくても同じ感覚で買い物出来るシステムの写真です。



図 5

今までのネット上では実現不可能だった匂いや香りなども、まだまだ実験段階ですが、ネットを通じてでもその商品の匂いや香りを体験できるシステムなども開発されていました。

図6の写真は、バスをラッピングするのにIT技術を使って行う実験です。



図 6

このITの世界は、日進月歩ですので、経済先進国である日本も日々技術開発を行っていかないと、現在の経済大国の地位が必ずしも未来永劫安泰であるとは言えません。

東芝の技術流出も含めて、日本の国益を守るためにも、ITの益々の進化・発展が必要だと実感させられました。

4 シンガポール教育省及び学校視察について

図7の写真は、ナンヤン女子中高一貫校の校舎内風景です。



図 7

シンガポールの教育は、きちんとしたビジョンの上に成り立っており、電子デバイスの使い方一つとっても、電子デバイスを学校に導入するだけが目的ではなく、その電子デバイスの取り扱いについても、保護者の理解を得る為に、電子デバイスの導入までの期間も相当期間あけ、電子デバイスを保護者から子供へのプレゼントとして、きちんとした儀式を行い、物の大切さなど教育の原点ともいえる事をしっかりと教えていました。

そのため、今まで一度も電子デバイスを壊した例もなく、生徒はし

っかりと自分の物として、大事に扱っているみたいです。

この事に関する質疑を、平成26年3月4日の教育こども委員会で
も行い、電子デバイスの使い方だけでなく、物を大切にさせる事も
大事な事だと質疑させて頂きました。

校長先生の話で印象的だったのは、「これからの子供は生まれた時か
ら当たり前のように電子デバイスが身近に存在し、勉強の道具では
なくおもちゃの存在でもあり、また何かを調べる時に今までは学校
の先生だけだったのが、ネットを通じて色々な方から色々な情報を
得る事が出来る。だから、逆にネットの知識や判断力がこれからの
子供達にはますます問われるし、大事な点なのです。」と言われてい
ましたが、まさにその通りで、これからの子供達は、ネットに存在
する情報が必ずしも正しいもの、悪意のないものとは限らないので、
電子デバイスの利用をするにあたっての心構えなどが、今後重要に
なる。

このICTの分野は、日本よりもシンガポールの方が10年も20
年も先に進んでいると言われてはいますが、ただ良い電子教材を作る
だけが全てではなく、電子デバイスという小さい端末であっても世
界に繋がるという自覚なども必要となる。

電子デバイスが単なる教材の一つと考えるのは、電子デバイスを生まれた時から身近に存在している今の子供達にはなかなか難しい問題で、まずはおもちゃではなく、教材の一つだと言う事から教えていると言われた校長先生が正論だと考えます。

図8の写真は、実際に電子デバイスを用いた授業中を視察させて頂きました。電子デバイスでプレゼンをグループごとに行っており、通常の授業と異なり、電子デバイスを使うだけで生徒の興味や集中力や関心が高くなっている気がしました。



図 8

図9と図10の写真はキャンベラ小学校での視察風景です。



図 9



図 10

5 リゾート・ワールド・セントーサ視察について

シンガポール初のカジノがセントーサ島に出来ましたが、前日のマリーナベイ・サンズとは異なり、マーライオンタワーや世界最大級の水族館やユニバーサル・スタジオ・シンガポールなど観光客をメインに構成されたリゾート施設です。

図 1 1 の写真が水族館です。

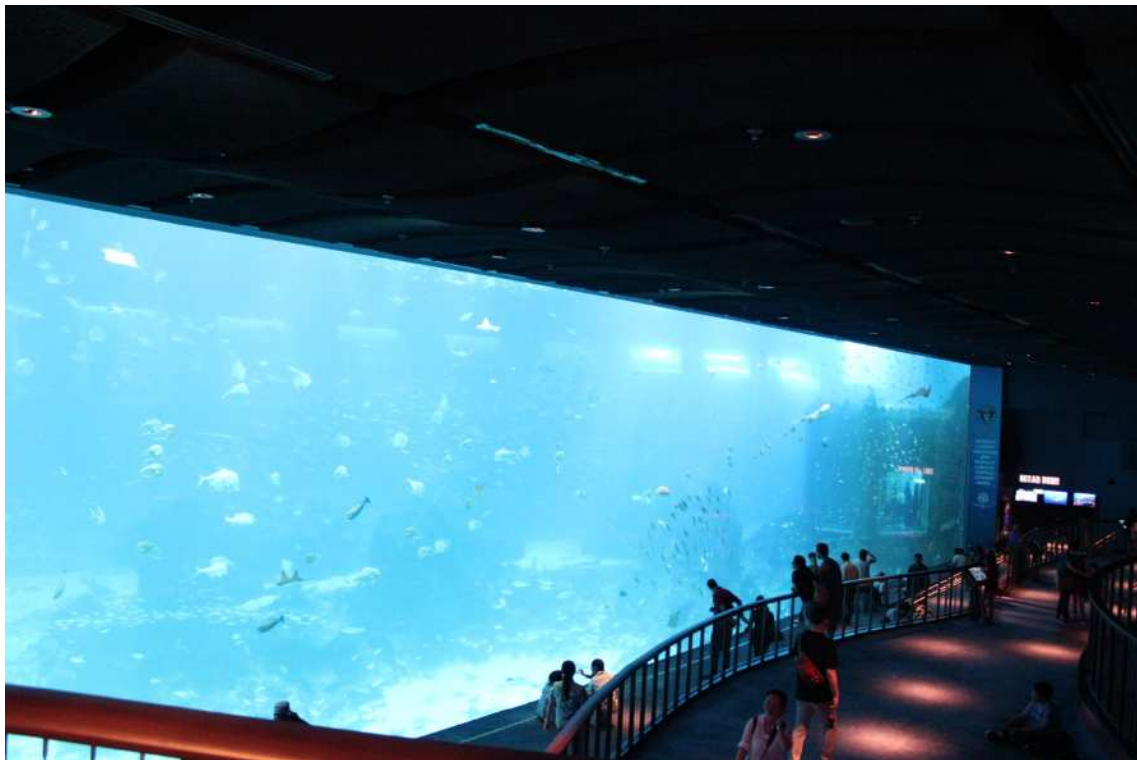


図 11

従来の観光客メインのリゾートで、マリーナベイ・サンズが大人の方を対象にしているのに対して、リゾート・ワールド・セントーサは家族客をメインターゲットにしています。

シンガポールがここまで短期間に観光立国になったのは、マリーナベ

イ・サンズとリゾート・ワールド・セントーサが上手く住み分けた結果、多種多様な観光客の呼び込みに成功致しました。

この二つの施設が核となり、楽しめる客層を選ぶのではなく、来訪者自身に選択権があり、どの世代の方が来訪しても楽しめるように構成されています。

全く違った構成で作られたこの二つの施設の相乗効果が、客が客を呼ぶ好循環になっていると考えます。

このセントーサ島では、ゲンティン・シンガポール社との意見交換も行いました。(図12)



図 12

先程も述べましたが、リゾート・ワールド・セントーサも統合型リゾートではありますが、従来のリゾート施設を効率よく集約し、一大リゾート地域にセントーサ島を押し上げました。(図13)



図 13

このリゾート・ワールド・セントーサもシンガポール経済へ与えた影響は大変大きく、6万人以上の雇用創出や税収も11億米ドルを生み出しています。

また現地採用も70%が現地の人であり、雇用に与える影響は大変大きいものがあると言えます。

6 シンガポール港視察について

シンガポール港は、コンテナ取扱量が世界トップクラスで、アジア最大級のハブ港の一つになっています。(図14)

港湾業務のIT化も先駆的に取り入れ、利便性が高く円滑な運営が行われています。



図 14